

浜松市議会議員

田口 章

後援会
だより

お気軽にどうぞ
昼 053 - 447 - 3820
夜 053 - 440 - 7100

平成 20 年 12 月 1 日

創ろう！元気な浜松

行財政改革は意識改革から

11/26(水)「代表質問」で、鈴木市長に強く要望

11月26日、会派「市民クラブ」を代表して「代表質問」を行いました。質問テーマは「日本一のまちづくり」。浜松を魅力あふれる都市にしていくために、5つの項目について市の取り組み強化を求めました。

企業経営手法で「行政経営」を日本一に「ユニバーサルデザイン(UD)」のさらなる推進「こども第一主義」で「子育て支援」の充実を教育は未来への最大の投資。フロントランナーとして「外国人との共生」推進を



【市の財政を家計に例えて意識改革を訴える】

以下に概要をご報告します。ぜひ、ご意見をお聞かせください。

質問内容	答弁者と内容
1. 行政経営日本一に向けて	
(1) 戦略計画 2008 では、トップが示す方針が、部局の計画に反映されていないケースがあった。部局や課単位まで、市長の考え方を浸透させるには強いリーダーシップを進めるべきではないか。	<p>【鈴木市長】 戦略計画では「共生共助でつくる豊かな地域社会の形成」と「ひとつの浜松による一体感のあるまちづくり」の2つを市政運営の基本方針に、6つの重点戦略を掲げた。</p> <p>今年度、公表した部長宣言では、部長・区長が20年度中に取り組む方針を明らかにし、責任をもって実行することを宣言している。</p> <p>今後も市長の意志を組織の細部にしっかりと浸透させ、全国に誇る市政運営を進めていく。</p>
(2) 戦略計画をグループ・個人の年度計画に落とし込み、PDCAを回すために「目標管理制度」を導入するとともに、職責や能力、成果を反映した人事処遇制度とし、職員のやりがい、働きがいにつなげてはどうか。	<p>【鈴木市長】 戦略計画の着実な実行と職場運営を通じた人材育成を促進する仕組みとして、平成20年3月に「チャレンジミーティング」を導入した。処遇面では、管理職について考課結果を給与に反映している。</p> <p>今後は一般職員の給与への反映を含め、職員が能力を発揮しやりがいの持てる職場環境づくりに務めていく。</p>



<p>(3) 上場企業では「内部統制報告制度」が義務化されたが、その手法を用いて業務の有効性、効率性のアップやリスクマネジメント、コンプライアンスの確保に努めてはどうか。</p>	<p>【鈴木市長】 市政の透明性及び信頼性の確保につながると考えるので、市民サービスや行財政運営に影響の大きい業務、窓口での定型的な業務を中心に内部統制のあり方について検討していく。</p> <p>コンプライアンスの徹底は、信頼される行政運営の基本と認識している。本年、「浜松市法令遵守の推進に関する要綱」を定め推進体制を整えた。これを着実に運用して一層の徹底を図っていく。</p>
---	---

<p>(4) 公会計改革の進め方について、施設や事業ごとの B/S、P/L を作成し、施設管理や事業の統廃合や効率化を進めてはどうか。</p> <p>意識改革にはどのように取り組んでいくか。</p>	<p>【山崎副市長】 本市は、全国に先駆けて B/S、行政コスト計算書(P/L)などを作成し公表している。活用には、ミクロの分析が有効と認識しており、文化ホール、スポーツ施設などについて B/S、P/L を作成している。</p> <p>実際の財政運営、コスト管理などに活用していくには、職員の意識改革に向けての研修が必要不可欠。部課長、中堅職員に対して研修を進め、各所管課において施設別、事業別の財務諸表の作成を通じて職員意識の改革に取り組んでいく。</p>	
---	---	---

<p>(5) 来年度は税収の落ち込みが懸念される。財政健全化を進め、行政評価や戦略計画を評価し、重点事業へ選択と集中し予算編成すべきだが、考え方を伺う。</p>	<p>【鈴木市長】 法人市民税の大幅な減額が見込まれるなど、平成 21 年度予算にも大きな影響がでるため、これまで以上の行財政改革による歳出削減が求められる。</p> <p>来年度予算編成においては、財政の健全化を図りながら、市民が行財政改革の効果を実感できる予算を作成していく。</p>
--	--

2 . ユニバーサルデザイン (UD) 日本一に向けて

<p>(1) UDは浜松の魅力の一つ。市民一丸となって、これまで以上に学校教育や市民への普及を図り、心のUDを進めてはどうか。</p>	<p>【清田企画部長】 本市では、全国に先駆けてユニバーサルデザイン条例を制定、「思いやりの心が結ぶ優しいまち」をスローガンに掲げ、様々な施策を推進してきた。この実現には互いに人を思いやる「心のUD」が重要となる。</p> <p>このため学校教育や社会教育にも積極的に取り組んでいる。今後は、学校単位のUD学習研究の取り組みを促進するなど、UD理念の普及を目指していく。</p>	
---	---	--

<p>(2) 施設や道路改良を進め、早急に名実ともにUD先進都市を築き、浜松の魅力の一つとしてシティプロモーションに使ってはどうか。</p>	<p>【清田企画部長】 次年度予定されている「モザイカルチャー世界博 2009」や「日本選手権水泳競技大会」などの大型イベントにおいて、だれもが利用しやすい施設整備や思いやりの精神を盛り込んだ企画運営、UDに配慮したイベントになるよう努め、本市の持つ魅力の一つとして発信していく。</p>
--	--

3 . 子育て支援日本一に向けて

<p>(1) 不妊治療の助成金額や回数などの上乘せ措置や、妊婦健診への助成も上限回数をなくしてはどうか。</p>	<p>【鈴木市長】 不妊治療は、平成 16 年度から費用の一部を助成してきたが、治療費が高額で経済的負担は大変大きい。子どもを産みやすい環境をつくるための支援として、助成額の上乗せ措置を行う市独自の制度について検討していく。妊婦健診の助成については、国の動向を把握し検討を進めていく。</p>
--	--

<p>(2) メディカルバースセンターの開設に向けた準備状況はどうか。</p>	<p>【鈴木市長】 バースセンターは産科医師不足が大きな問題となっている中、医師の負担軽減と分娩取扱い件数の増加を目的に進めている。工事は順調に進捗し 12 月上旬に完成する。助産師の研修について、産科や新生児科の医師の協力のもと実地研修を行っていく。妊婦健診や相談業務についても、女性の立場で優しく適切に行えるよう指導し体制を整えていく。</p>
---	--

<p>(3) 戦略計画 2009 基本方針に「放課後児童会待機児童解消」が記載されたのは評価。</p> <p>ア お客様第一主義で考えるべきと思うが、取り組み姿勢を伺う。</p> <p>イ 応募者、入会できなかった児童、現在の待機児童は何人か。その差をどう考えるのか。</p>	<p>【鈴木市長】 放課後児童会は、仕事と家庭の両立支援という大きな役割を担っていることから、子どもはもとより保護者にとっても安心して使いやすい放課後児童会の充実のため、市民ニーズを把握しサービスの質・量の向上を目指していく。</p>	
<p>【鈴木子ども家庭部長】 平成 20 年 4 月には定員を 150 名増員し充実に努めた。応募者数は 3,863 人、入会できなかった人数は 192 人、この内、待機児童数は 5 月 1 日現在で 73 人、10 月 1 日現在では 29 人。入会基準を満たす待機児童があることは課題。</p>		

<p>ウ 待機児童がいる学校で行っている「余裕教室開放事業」は、市民ニーズを踏まえた上で見直してはどうか。</p>	<p>【古橋学校教育部長】 余裕教室開放事業は小学校16校で実施しており、今年4月に曳馬小学校では公民館に設置されていた放課後児童会と開放教室との入替を行った事例がある。</p> <p>教育委員会では、開放教室の転用についてこども家庭部と連携し、放課後児童会の設置について積極的に協力していく。</p>	
<p>エ 地域の理解を得て「なかよし館」の見直しを含め、放課後児童会の拡充を図ってはどうか。</p>	<p>【鈴木こども家庭部長】 「なかよし館」は利用者数も多く評価も高いことから、子育て支援事業として放課後児童会と同様に重要であると認識している。しかし、見直すことについては、機能を代替する施設が他にあり、地域の皆様の総意が示されれば検討していく。</p>	
<p>オ 昨年度、文科省がスタートした「放課後子ども教室」を導入していないが、あらゆる手法を考えて、放課後の子ども対策を進めるべきではないか。</p>	<p>19年度「放課後こどもプラン推進委員会」を発足させ、導入の方向性を検討した。放課後児童会の拡充を優先して実施し、その後に放課後子ども教室の導入を図るべきとの提言をいただいたことから、放課後児童会を最優先課題として取り組んでいく。</p>	

4 . 教育環境日本一に向けて

<p>(1) 30人程度学級の評価はどうか。試行対象校では、もう1年継続実施してはどうか。</p>	<p>【高木教育長】 肯定的な意見として「一人一人が活躍する場が増え学習意欲が高まった」、「教室環境に余裕ができ多様な学習形態が可能になった」など。</p> <p>課題として、「学習内容によっては複数の指導体制がよい場合がある」などがあがっている。今後、子ども、保護者、学校等多面的な視点で検証・評価を進めていく。</p> <p>来年度は、地域性や入学児童数等の状況を考慮し新1年生を対象に30人程度の学級編制を行う5校を新たに指定しモデル事業を進めていく。</p>	
<p>(2) 発達支援教育の充実について、さらなる拡充を図ってはどうか。</p>	<p>【高木教育長】 支援員は毎年増員を図り、本年度は県費の特別支援教育非常勤講師35人、市単独事業として、スクールヘルパーを73人、発達支援教育指導員は毎年度比10人増の32人を配置しており、今後も計画的に拡充を図っていく。発達支援学級、通級指導教室については、まだ必要とする地域もあると認識しており、県教育委員会に強く要望していく。</p>	
<p>(3) 年々ふえているいじめ・不登校への対応を伺う。</p> <p>ア いじめる側への心理カウンセリングはどう進めているのか。</p> <p>イ 「いじめ防止条例」を制定する考えはないか。あるいは今後策定を計画している「こども第一主義条例」に、いじめや人権擁護を盛り込む考えはないか伺う。</p>	<p>【高木教育長】 いじめ、不登校ともに背景やきっかけは様々であり、いじめる側への心理カウンセリングを含め、個別の事業に応じて養護教諭やスクールカウンセラーと連携した指導支援を行う。</p> <p>【鈴木市長】 いじめを防ぐためには、個性を尊重し、思いやりの心を育てることが重要で、教育が担うことだと考えており、子どもたちの自覚に基づく主体的な取組によって未然予防、早期解消が促進されるよう支援していく。</p> <p>「(仮称)こども第一主義条例」は、次世代育成支援行動計画の基本理念として、未来を担う子どもの健全な育成や環境づくりに、社会全体で取り組んでいくことなどを定めていく。この中で、子どもの人権の理念も含め、子育てがしやすいと感じられる社会の実現を目指していく。</p>	

5 . 外国人との共生日本一に向けて

<p>(1) 外国人登録時に、学校教育制度や税制、社会保険などを伝える仕組みが必要。対応の改善が必要ではないか。</p>	<p>【鈴木市長】 外国人市民に生活情報を伝達するには、受け入れ時が有効と考えている。</p> <p>また、就労するために日本へ渡航する方に対して、あらかじめ日本の労働環境や法制度の周知を図ることも有効な手段と思われる。</p> <p>ウェルカムパックの配布を継続しつつ、さらに有効な手法を検討していく。</p>
--	--

<p>(2) 入り口の課題は日本語習得 ア 大人の日本語教室を集住地域で開催できないか。 イ 子どもは小・中学校に入学時に、最低限の会話や生活に慣れるまでの期間、「プレスクール」を開設するなど、就学前のプログラムが必要ではないか。</p>	<p>【鈴木市長】 浜松国際交流協会が平成 19 年度から北部公民館を会場に「ブラジル人のための日本語教室」を開催している。 今後、多文化共生の推進にとって最も重要な日本語学習の充実を図るため、さらに別の集住地域の会場でも開催することを検討していく。 プレスクールにはメリットがあると認識しているが、外国人児童生徒が分散して居住している本市においては、通学面の課題もある。したがって、居住している地域の学校に編入学し、日本語を学んだり学校に慣れたりしていくという方法をとっている。また、日本語教室「はまっこ」や学校の取り出し教室は、プレスクールの役割を果たしている</p>
<p>(3) キャリア支援について ア 進路選択に悩む親子が多いが、相談体制が急務。高校の受入枠拡大を県に要請すべき。 イ 就労支援はどうか。</p>	<p>【鈴木市長】 外国人生徒が相談しやすい環境を整えることは進路選択に重要であると認識。パイリンガル相談員の派遣を増やし、気軽に相談できる進路相談体制の一層の充実を図っていく。高校の受入枠拡大について私からも直接県へ要望していく。 就労支援については、日本人の生徒と同様に就労支援を進めている。</p>

答弁では課題も多く、今後ともしっかりとチェックしていかななくては…と感じました。

また「放課後子ども対策」と「30 人学級」については、策定経過への疑念や、スピード感の不足を感じる場所があったため、「再質問」をおこないました。当局からの再答弁の後、下記のとおりコメントして、質問を終わりました。

目標管理について、チャレンジミーティングはいい取り組みだが、目標を達成してもしなくても、処遇が変わらないのでは、やらされ感が強まるのではないかと懸念する。「ガンバったら処遇に反映する」というメッセージを発したほうがいい。行政経営の根幹は人なので前向きに進めてほしい。

市の計画はぜひしっかりベクトルを合わせて進めていただきたい。戦略計画や行政経営計画で数値目標を示しているが、数値の根拠や、今の浜松の置かれているポジションの認識が、まだまだ甘いと感じる。

公会計改革による意識改革を進めてほしい。「財政のすがた」を活用して、行政と議会が市の財政を磨きあげていかなければならない。企業感覚だけでなく、市民感覚、家計感覚で意識改革はできる。

パネル(1 ページ参照)は「財政のすがた」に載っていた、普通会計の歳入 2717 億円、歳出 2620 億円を家計に例えた資料。

これを見ると、収入が 50 万円、支出が 48 万 2 千円と言うことで、一見黒字のように見える。

この表を市民に見てもらったが、ほとんどの人が、「これはおかしい。収入は 46.1 万円で赤字」と指摘していた。

収入に「ローンでまかなっている額 3.9 万円」というのがあがるが、普通の家庭では、ローンで借りたものを収入とは言わない。「収入は 46.1 万円で 2.1 万円の赤字」というのが市民感覚。

公会計ではこれが正しい処理だということだが、これが積みも積もったのが、今の国や地方の借金だ。

来年度の予算編成の考え方を市長に聞いたが、法人税収の減額見込みをあてはめると、月額約 7 5 0 0 円の基本給減となる。食費や光熱水費を節約し家電買替えも見直す必要がある。市民感覚でメリハリをつけた予算編成をしてほしい。

私は、民間の視点で、市長の行財政改革の推進を精一杯支援し、浜松が日本一のまちになるよう、一層、努力する。

今後とも、市政のチェックを進め、税金のムダ遣いをただし、市民生活の満足度を高められるよう、しっかりと努力してまいります。

みなさまもお気づきの点がありましたら、お気軽にお知らせください。

11月の活動報告

- 02(日) 入野地区老人クラブ連合会体育祭
- 05(水) 建設委員会
- 08(土) ナイスハートふれあいのスポーツ広場
- 09(日) 入野地区 福祉まつり
連合・教育署名活動
- 10(月) 全員協議会
連合浜松 意見交換会
教職員組合 意見交換会
- 13(木) 至誠会(新人議員勉強会・三ヶ日農協)
- 15(土) 冬の蛍イルミネーションライトオン
- 17(月) 本会議(11月定例会初日)
- 22(土) 入野地区社協 ふれあいウォーキング
- 24(月) 行革審(傍聴)
- 26(水) 本会議(代表質問)
- 27(木) 本会議(代表・一般質問)
- 28(金) 本会議(一般質問)

12月の活動予定

- 02(火) 建設委員会
- 06(土) 篠原公民館新築式典/暴力追放市民大会
- 07(日) 地域防災訓練
- 09(火) 行財政改革推進特別委員会
- 11(木) 本会議(11月定例会最終日)
- 14(日) 入野公民館まつり
- 16(火) 都市計画審議会
- 18(木) 教育シンポジウム
- 21(日) 行革審(傍聴)